

令和 6 年度
横須賀美術館 運営評価報告書
(一次評価)

令和 7 年（2025 年）7 月
横須賀市文化スポーツ観光部
美術館運営課

I 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にあって横須賀市を訪れる契機となる。
-

[一次評価]

達成目標	実施目標
S	S

【達成目標】年間観覧者数 239,400 人以上

[目標設定の理由]

- 「横須賀市立美術館基本計画」(平成 12 年 6 月策定) では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を 10 万人と推定し、年間観覧者数の目標としてきましたが、近年の観覧者数（平成 29 年度～令和元年度、コロナ禍が明けた令和 4 年度）は、いずれも 11 万人を超えていました。
- 令和 6 年度は、神奈川県では初開催となる「鈴木敏夫とジブリ展」等、多くのお客様を見込むことができる展覧会を開催することから、目標を大きく引き上げ、23 万 9,400 人を年間観覧者の目標とすることとしました。
- 観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

[一次評価の理由]

- 年間観覧者数 239,400 人という目標設定に対し実績は、301,086 人となり、達成率 125.8% と目標を上回ったことから、「S」評価としました。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
観覧者数	91,809 人	142,690 人	162,022 人	301,086 人

	展覧会名	会期	見込(人)	実績(人)	達成率(%)
企画展	(令和5年度) 日本の巨大ロボット群像	2/10- 4/7	2,000	3,863	193.2
	鈴木敏夫とジブリ展 [地下・所蔵品展示室]	3/20-6/18	90,400	146,183	161.7
	驚異の細密表現展	4/20-6/23	18,000	14,533	80.7
	エドワード・ゴーリーを巡る旅	7/6-9/1	30,000	26,457	88.2
	瑛九	9/14-11/4	15,000	17,119	114.1
	運慶展 運慶と三浦一族の信仰 [地下・所蔵品展示室]	10/26-12/22	16,500	※ 27,191	164.8
	響きあう20世紀美術彫刻の森 美術館×横須賀美術館	11/16-12/22	15,500	※ 12,498	80.6
	第77回児童生徒造形作品展	1/11-1/27	14,000	15,403	100.0
	サルバドール・ダリ展	2/8-4/6	28,000	43,458	155.2
	所蔵品展のみの期間	上記以外	10,000	8,090	80.9
	計		239,400	301,086	125.8

※11月3日(文化の日)、2月16日（市制記念日[2月15日]に直近の日曜日）は、無料観覧日

※響きあう20世紀美術、運慶展は、セット券販売を行ったため、重複あり

※所蔵のみ期間には、ジブリ展期間中の谷内館観覧者、1階企画展示室休室中かつ運慶展期間中の所蔵品展・谷内館観覧者を含む

【実施目標】

- ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。

- ・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に對しては積極的にX（旧ツイッター）、インスタグラムなどのSNSを活用していきます。
- ・Wi-Fi等を活用し、来館者に魅力的な情報提供、情報発信を促します。

[一次評価の理由]

- ・令和6年度は、注目度の高かった「鈴木敏夫とジブリ展」や「運慶展」はもちろん、既存の美術ファンにも楽しんでいただける「細密表現展」、季節の花・アジサイの紹介などで、影響力の大きなテレビ取材を意欲的に受け入れました。開館中の展示室内で作品鑑賞とあわせて音楽を楽しんでいただくコンサートの取り組みを継続したほか、新たに展覧会と関連づけたコンサートの組み立てや、パイプオルガンとのコラボレーションにも取り組みました。季節の花情報とあわせたSNS投稿キャンペーン「アジサイ割」の実施、積極的な商業撮影の受け入れを行ったことなどから、「S」評価としました。

《広報・集客促進事業》

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

（1）訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は1,046件となり、例年目標としている220件を4.75倍上回る数字を達成することができました。

（単位：件）

媒体	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新聞	130	157	84	90
雑誌	21	60	71	76
Web	76	72	171*	725*
フリーページ	105	103	87	82
書籍	6	1	5	6
TV	11	13	23	13
ラジオ	2	15	32	33
その他	2	15	25	21
合計	380	436	498	1,046

*令和5年度ジブリ展以降～PRTIMESからの転載を含む

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
⇒広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載
- ・公共交通機関への広告掲出

- ⇒京浜急行線 中吊り（1週間）1回
※ 運慶展・響きあう展で実施
- ⇒京浜急行線 駅貼り（会期中随時）1回
※ 運慶展・響きあう展で満喫きっぷとのタイアップ実施
- ⇒京王線 新宿駅・渋谷駅など駅貼り（会期中随時）7回
※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施
- ⇒JR線 浦和駅・北浦和駅貼り（2週間）1回
※ 瑛九展で実施
- ⇒京急線横浜駅サイネージ（1週間）
※ 細密表現展、ゴーリー展、運慶展・瑛九展、響きあう展で実施
- ⇒横須賀中央駅サイネージ（4週間）
※ 運慶展で実施
- ⇒JR 品川駅改札内サイネージ（4週間）
※ 運慶展で実施
- ・その他広告掲出
⇒ニコニコ動画「ニコニコ美術館」番組制作
※ 運慶展で実施
- ・SNS（X、フェイスブック、インスタグラム等）による有料広告
⇒細密表現展、ゴーリー展、瑛九展、運慶展、響きあう展、ダリ展、第4期所蔵品展・谷内展で実施
スクリーンショット画面を提示すると企画展が割引になるキャンペーンを実施
- ・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
⇒新聞、タウン紙、雑誌等での広告
はまかぜ新聞（第2期所蔵品展）
- ・コミュニティラジオ「FM ブルーアシタナ」番組出演（毎月）
- ・プレスリリース配信
⇒PR TIMESへのプレスリリース掲載（各企画展、観覧者数累計200万人達成、プリツカー賞セレモニー、野外シネマ、アジサイ開花情報等）
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充
⇒ホームページリニューアルによる多言語に対応（令和4年3月より本格運用）
英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ほか自動翻訳機能対応
- ・ホームページ、X、フェイスブック、インスタグラムを活用した情報発信
⇒桜、紫陽花、ネムノキなど、季節の花情報を追加・拡充し、観音崎地域の周遊を図る情報発信を実施
美術館園路のアジサイを撮影してSNSに投稿すると企画展が割引になる「アジサイ割」を実施
- ⇒美術館公式Xの運用状況
(運用開始：平成24年9月29日)
2025年3月31日現在 フォロワー：20,628人

昨年度末18,611人より約2,017人増加しました。

⇒フェイスブックの運用状況

(運用開始：谷内六郎館 平成27年7月31日～、横須賀美術館9月9日～)

2025年3月31日現在

横須賀美術館フォロワー：5,825人、谷内六郎館フォロワー：727人

横須賀美術館：昨年度末4,922人より約903人増加しました。

谷内六郎館：昨年度末677人より約50人増加しました。

⇒インスタグラムの運用状況

(運用開始：令和3年3月4日)

2025年3月31日現在 フォロワー：15,607人

昨年度末9,828人より約5,779人増加しました。

SNS毎の特性を活かした情報発信に努めています。

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

・コンサート等、各種イベントの開催

実施日	イベント名	参加者
7/1	山本理顕氏プリツカー賞受賞記念 横須賀美術館 無料開放	818人
7/17	Monthly Welcome Music in July	70人
8/20	サマーコンサート	73人
9/18	Monthly Welcome Music in September	42人
10/6	即興アートバトル 筆ロック 一東西大会 FINALー	350人
10/16	Monthly Welcome Music in October	85人
11/20	Monthly Welcome Music in November	80人
12/14	クリスマスコンサート	90人
1/15	Monthly Welcome Music in January	82人
2/19	Monthly Welcome Music in February	89人
3/15	ダリ展関連事業 コンサート「ダリを想つて～影響し影響された音楽」	63人

※ジブリ展会期中は、コンサート開催なし

・年間パスポートの販売

	令和6年度	
	販売枚数	利用回数
パスポート	167枚	766回

※令和2年度以降、コロナの影響により販売休止していたが令和5年度再開

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・運慶展コラボキャンペーン 企画課と連携した「邪鬼を踏みつけろ！フォトチャレンジ！」「運慶・三浦一族ゆかりの地をめぐるデジタルスタンプラリー」
- ・SENSE ISLAND/LAND サテライト会場として、作品展示スペースを提供したほか、広報協力を行った
- ・koyart プロジェクト 農水産業振興課と連携した「よこすか野菜のPR」
- ・「いくらでもスープ」 学校食育課と連携して、谷内六郎の誕生日にあわせ、学校給食で谷内六郎にちなんだメニューを提供
- ・スポーツ振興課「横須賀スタジアムBCリーグ」への協賛
- ・企画課「マイナビ JapanCup Yokosuka」への協賛
- ・文化振興課「ティボディエ邸来館者20万人達成イベント」への協賛
- ・商業振興課後援「ヨコスカダウンタウン・キッズフェスティバル」「ゆかたDEスカブラ」「ヨコスカハロウィンフェスティバル」への協賛
- ・観光課「日本遺産×よこすかルートミュージアム開国と日本近代化の歴史をたどるデジタルスタンプラリー」
- ・横須賀市観光協会「東京九州フェリー船内見学会」「横須賀おみやげアイデアコンテスト」販売フェア、「オータムフェスタ」「田戸台一般公開」「横須賀フォトコンテスト」への協賛
- ・企画調整課「すかりぶでのイベント」「1万メートルプロムナードでのイベント」移住イベント「ふるさと回帰フェア」「Yokosuka Peace Project」等への協賛
- ・都市戦略課「東京からの転入者アンケート」「リビエラマンガ大賞」への協賛
- ・広報課「はたちとつながるLINEでお祝いキャンペーン」への協賛
- ・デジタルガバメント推進室「モニタリング調査」への協賛
- ・健康増進課「スカリンカップボッチャ大会（生涯現役フォーラム）」への協賛
- ・子育て支援課「横須賀市保育園・こども園・幼稚園 就職セミナー・相談会」「横須賀市保育園 秋の就職セミナー・相談会」への協賛
- ・大津行政センター「わらじ卓球大会」への協賛
- ・環境政策課「横須賀市×ラビスタ観音崎テラス CLEAN×ENJOY 大作戦！」への協賛
- ・経済企画課「高校生合同就職説明会」への協賛
- ・創業・新産業支援課 企業誘致や事業連携など、様々な企業と関わる際の横須賀市のPRとして協賛
- ・教育政策課「教育フォーラム」への協賛
- ・生涯学習課「社会教育委員会議」「文化財専門審議会」
- ・窓口サービス課「婚姻届上質紙受理証明書請求者」
- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What's New in Yokosuka（市ホームページ内外国人住民向け情報ページ）への展覧会情報の掲載

外国人観覧者数（H28年度から集計）

	西洋系	東洋系	その他	計
R2 年度	243 人	486 人	30 人	759 人
R3 年度	416 人	641 人	36 人	1,093 人
R4 年度	451 人	657 人	70 人	1,178 人
R5 年度	1,308 人	1,921 人	182 人	3,411 人
R6 年度	1,813 人	3,237 人	114 人	5,164 人

- ・ふるさと納税へ商品提供
⇒観覧券+レストランアクアマーレ食事券の提供
※令和6年11月より一時休止（令和7年11月からの改修工事のため）

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒タイアップメニュー（アクアマーレ 展覧会コラボレーションメニュー）
⇒広報協力（ラビスタ観音崎テラス、湯楽の里、東京湾フェリー、ソレイユの丘ほか）
⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR（実践女子大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学等 30校）
⇒JAFフェスティバル、横須賀市観光協会への協賛
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒JAF、ベネフィット・ステーション、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合 など

・京浜急行電鉄「よこすか満喫きっぷ」「三浦半島まるごときっぷ」への参加

種類／年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
よこすか	1,765 人	1,960 人	2,072 人
三浦半島	35 人	53 人	29 人

※「よこすか満喫きっぷ」はH29年7月、「三浦半島まるごときっぷ」はR2年10月参加

- ・JR東日本 湘南・三浦半島版「駅からサイクリング ver2」デジタルスタンプラリー
- ・インターネットミュージアム「ミュージアム干支コレクションアワード」への参加

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
⇒観音崎海岸清掃、近隣町内会清掃活動への参加
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催

- ⇒観音崎フェスタへのチラシ配架
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
- ⇒タイアップメニュー（展覧会コラボレーションメニュー）の実施
併設レストランアカマーレで企画展にあわせて実施
- ⇒観音崎施設共通割引（観音崎自然博物館、BEACH↔PARK LIVING）への参加
- ⇒koyart プロジェクト 大学研究室や企業との連携
- ・協賛企業の募集（展覧会に協賛（寄附）をしてくれる企業を募集）
- ⇒令和6年度応募実績：1社
一般財団法人シティサポートよこすか（運慶展）

（4）団体集客の推進

- ・民間事業者と連携した旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒神奈川県主催モニターツアー受入
- ⇒パシフィコ横浜「ユニークベニュー体験会」
- ⇒観音崎公園、市観光協会と連携した教育旅行の企画提案、誘致
- ⇒東京九州フェリーと連携した「LOVE 得ツアーア」
- ・ウェルカムトークの実施
⇒コロナ禍以降、様子をみながら希望に応じて実施

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	39	1,160	99	3,648	181	6,501	86	5283
その他	18	1,146	182	4,442	184	6,947	195	4587
計	57	2,306	281	8,090	365	13,448	281	9870

（5）商業撮影、取材の受入と誘致

- ・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。
- ⇒ジブリ展、細密表現展、運慶展、アジサイをはじめ、地上波で放映されるテレビ取材を積極的に受け入れた。商業撮影については、ジブリ展会期中は混乱を鑑み受け入れを中断していたが、閉幕後より再開した。

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
撮影件数	40 件	24 件	32 件	22 件
使用料	3,026,225 円	2,460,034 円	2,402,239 円	1,550,886 円

（6）オンラインコンテンツ等の拡充

- ・美術館ウェブサイト、YouTube、SNS を利用してのオンラインで楽しめる美術館コンテンツを拡充し、より広い層に美術館の魅力を発信する。
⇒初夏の風物詩であるアジサイの開花情報をウェブサイトお知らせ「紫陽花だより」、SNS で発信した。

- ・引き続き、ツイッターなどの SNS で駐車場や混雑情報を発信。来訪者の混雑及び密を回避し、安心・安全な来訪を後押しする。
⇒人気の高い企画展や、無料観覧日等にオフピーク来館を発信

(7) 「鈴木敏夫とジブリ展」について

「鈴木敏夫とジブリ展」は、横須賀市と民間企業が出資した開催委員会を設置して、開催した。これにより、民間企業が持っているパイプやノウハウを生かすことが可能となり、「訴求活動による集客促進」「民間企業との連携」「地域との連携」についても、過去に例がない規模、手段により実施することができた。

①訴求活動による集客促進

- ・三笠ターミナルでの「鈴木敏夫とジブリ展」の関連展示
- ・京急線各駅へのポスター掲出（満喫きっぷコラポスター）
- ・京王線主要駅（新宿駅、渋谷駅、吉祥寺駅ほか）へのポスター掲出
- ・京急バスによるラッピングバスの運行
- ・京急電鉄によるラッピング電車の運行
- ・大型屋外広告の掲出（コースカベイサイドストアーズ、リドレ横須賀、三笠商店街、若松マーケット「ローソン・スリーエフ」横須賀中央駅前店、三笠ターミナル）
- ・ローソン媒体への掲出（店頭ポスター、スペイン坂・都内街頭ビジョンでの CM 放映、POS レジ動画、ウェブサイト、販促 SNS、メールマガ等）
- ・パシフィコ横浜展示ホールビジョンでの CM 放映
- ・t v k （テレビ神奈川）での CM 放映
- ・横須賀エリアガイドブック「まっふる」（ジブリ展特別号）の発行
- ・広報よこすか、市ウェブサイトトップページバナー等、市広報媒体への掲載
- ・タウンニュース広告掲載（3回）
- ・神奈川新聞広告掲載（5階）
- ・レッツエンジョイ東京記事掲載
- ・開業式の開催、湯婆婆・カオナシの着ぐるみ登場
- ・関連イベント「崖の上のポニョ ふわふわくらげ」、関連ワークショップ「アニメーション美術の技法で『青空に浮かぶ雲』を描く」を開催
- ・谷内六郎館外庭に屋台を設置
- ・来館者 5 万人、10 万人達成セレモニー開催
- ・SNS 等による混雑状況の発信、市コールセンターとも連携した問い合わせ対応の強化

- ・au プレミアム内覧会、インフルエンサーを活用した発信

②民間企業との連携

- ・京急バスによる馬堀海岸駅～観音崎の路線バス増便
- ・横須賀商工会議所所属店舗によるポスター掲出
- ・ネクセリア東日本 パーキングエリア（都筑・保土ヶ谷・横須賀 PA）で使えるお割引クーポンを配布（横須賀美術館、YOKOSUKA 軍港めぐり汐入ターミナル、コースカベイサイドストアーズ、三笠ターミナルの市内4箇所）
- ・マロウコラボ商品「湯婆婆ビーカー入り北海道フレッシュクリームプリン」「湯婆婆缶入りビスコッティ」限定発売

③地域との連携

- ・スタンプラリーの実施（スタンプ箇所：浦賀駅、馬堀海岸駅、横須賀モアーズシティ、三笠ターミナル、コースカベイサイドストアーズ、いちごポートマーケット、若松マーケット「ローソン・スリーエフ」横須賀中央駅前店、ドブ板通り「ドブ板ステーション」）
- ・横須賀商工会議所所属店舗による「応援キャンペーン」の開催（鈴木敏夫とジブリ展半券提示でドリンクサービス、X%オフ等）
- ・若松マーケットによる提灯掲出
- ・ドブ板通りによるスタンプラリー応援キャンペーンの実施（対象店舗にスタンプ台紙を提示して特典）
- ・トライアングルによるガイドツアー「美術館からのさんぽみち」の開催
- ・県立観音崎公園による第4駐車場（臨時駐車場）の開放
- ・馬堀海岸、走水、浦賀地域の店舗によるポスター掲出
- ・土日祝日にあわせたビーチパークリビングでのイベント開催

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	S

【達成目標】市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数 延べ 1,700 人

[目標設定の理由]

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・令和 6 年度の目標は、参加者数延べ 1,700 人とします。
- ・ギャラリートークを実施します。

* ギャラリートークボランティア登録者数 22 名（令和 6 年 1 月末時点）

- ・小学生美術鑑賞会ボランティアは従来どおり鑑賞会ごとにボランティアを配置する予定ですが、対話による鑑賞も取り入れていく予定なので、全体的な活動人数は増加します。

* 小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 22 名（令和 6 年 1 月末時点）

- ・みんなのアトリエボランティアは、対面ワークショップを再開しているため、各回配置する予定です。

* みんなのアトリエボランティア登録者数 15 名（令和 6 年 1 月末時点）

- ・プロジェクトボランティアの活動については、海の広場などを活用した誰でも参加できるイベントを年 2 回実施します。

* プロジェクトボランティア登録者数 17 名（令和 6 年 1 月末時点）

[一次評価の理由]

目標に対して 163.3% の達成率であったため、一次評価を A としました。ギャラリートークボランティアについては、作品の前でお客様を迎える方法に変えたため、トークに参加してくださったお客様を累積して数えるようになりました。小学生美術鑑賞会ボランティアの活動については、特に問題なく小学校を迎え入れることができました。みんなのアトリエボランティアについては、ボランティア登録者数が安定したため、十分な人数で活動をフォローすることができました。プロジェクトボランティアについては、年 3 回のイベントを実施しました。イベントの準備活動も予定どおり行いました。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数 (単位：人)

	平成 30 年度 (コロナ前)	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ギャラリートークボランティア	433	0	39	210	384
小学生美術鑑賞会ボランティア	269	10	106	295	307
みんなのアトリエボランティア	39	中止	8	29	33
プロジェクトボランティア	229	15	279	231	230
プロジェクト当日ボランティア	26	中止	6	3	4
小計	996	0	438	770	957
ギャラリートーク参加者	656	0	0	211	1,444
ボランティアイベント参加者	855	0	563	245	375
小計	1,511	0	563	456	1,819
計	2,507	25	1,001	1,226	2,776

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう、活動の周知や、ボランティアによる主体的な活動の充実に努めています。

[一次評価の理由]

ギャラリートークボランティアの活動については、作品の前でお客様を迎える方に変えたところ、従来のツアーワークの時よりも参加されるお客様が増え、ボランティ

アが作品について話す回数も増えました。学んだことを活かす機会が増えており、ボランティアも充実感を持って活動に参加できているようです。小学生美術鑑賞会ボランティアについても、児童数に対してボランティアを多く配置することができ、延べ300人が活動しました（目標値200人）。プロジェクトボランティアの活動についても、昨年度よりイベント参加者が130名増え、イベント準備を含めて充実した活動となりました。各活動において、ボランティアがやりがいを持ち、いきいきとした表情で活動できたため、実施目標はS評価としました。

II 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

[目標設定の理由]

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・順路・照明」「解説」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・アンケートは、従来の紙に加え、令和5年8月から神奈川県の電子申請システム e-kanagawa で回答を受け付けています。展示を見た人が回答するよう、回答ページに接続するQRコードはアンケートコーナー（本館1階、谷内六郎館）と地階の所蔵品展示室に掲示しています。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

* なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は

$$(A \cdot a + B \cdot b + C \cdot c + D \cdot d + E \cdot e + F \cdot f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

[一次評価の理由]

目標の「80%以上」を超える90.5%という数値となりました。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
企画展満足度	92.7%	90.9%	89.2%	90.5%

企画展別にみると、「鈴木敏夫とジブリ展」の満足度は90%を超え、項目別で最も低い「解説」が82.3%と高いレベルにあります。初めて来館した人は、64.1%と非常に高く、また周辺観光をした人は17.9%と高い数値でした。ひろく一般に認知されているスタジオジブリ展および関連イベントによって、本展はこれまで横須賀美術館に関心をもってこなかった層に訴求し、横須賀市の観光に寄与したことがうかがえます。

「驚異の細密表現展」は満足度の項目では「作品」が93.0%、「心的充足」が87.4%、最も低い数値が「解説」で81.1%でした。すべての項目が80%台以上だったので、平均的に満足度が高かったといえます。とはいえた今回の展覧会のテーマが「細密表現」であったため、作家略歴や解説パネルも取り入れていましたが、「どこがどのように細密なのか」をより詳しい解説を求めていることが見てとれます。

「エドワード・ゴーリーを巡る旅」では項目別では「作品」が最も高く93.9%、次いで「心的充足」が90.6%と高い数値でした。おむね満足感はありながらも、「解説」の項目が80.6%と低く、著作権の関係で絵本のテキスト部分が紹介できなかつたことが影響していると思われます。居住地域については神奈川県東部が36.3%と最も高く、県内からの来館が61.0%と過半数を占めました。

「瑛九展」は関東で13年振りの回顧展でした。代表作の多くが宮崎県立美術館に収蔵されていることもあり、日々の開催で自主企画であったことから予測を超える観覧者数の実績を出すことができました。作品の満足度は90.8%、逆に低かったのが解説で76.7%であった。総点数121点に対し、45点の解説やパネルの掲示でしたが、「数」ではなく内容や読みやすさに課題があったと認識しています。

2022年の「運慶展」に続き、本展は浄楽寺収蔵庫改修に際し、運慶仏5尊すべてをお預かりし、鎌倉市、鎌倉国宝館、神奈川県立金沢文庫と連携、協力をした展覧会。期間中、運慶展を目的として来館した方の割合が飛び抜けて高く、運慶の強い訴求力がうかがえます。作品の満足度も90.2%と、一定の評価を得ることができました。最終的な観覧者数は27,191人でした。

一方、常に課題となっている展示解説への高いニーズに対しては、イラストガイドの『見てわかる編』と、浄楽寺副住職のインタビュー記録『読んで知る編』を無料配布するなどして対応に努めたにも関わらず、「解説」に対する満足度は78.9%と低调でした。展示解説について、よりよい手法を今後も検討していきます。

「響きあう20世紀美術展」では満足度86.1%に達しましたが、本年度の他の企画展と比べると必ずしも高レベルの達成とはいません。本展では17のテーマに沿っておよそ時系列に作品を展開し、テーマごとの解説を設けましたが、項目「解説」の満足度は77.0%にとどまりました。各作品、作家解説を設けるなど、さらに工夫する余地があったと思われます。

「生誕120周年 サルバドール・ダリ展」は、関東で日々のダリ展ということもあります。来館者数は当初予定を大幅に超える実績でした。満足度が高いのが「作品」で92.4%、最も低かったのが「解説」で76.6%。30点以上の解説、コラムをつけましたが内容が難しかったと推察しています。来館者属性としてはいつもより「都内」からの来館が26.3%と高く、広い地域からの来館者が観覧者数の伸びに寄与していると思われます。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較

するには注意が必要ですが、総合的に97.2%と高い満足度を示しています。令和3年度以降、数値が上がり、コロナを経て「本当に来たい人だけが来る」状況であることに加え、学校の活動が制限される中、展覧会を見られる喜びが数値を押し上げていると分析しています。

各項目についての満足度を見ていくと、企画展では「作品」はすべて80%台後半から90%台前半、「総合」においても80%台半ばから90%台前半、「配置・順路・照明」と「心的充足」が80%台後半から90%台の数値を出しています。「解説」は70%台後半から80%台で、これは解説の量とは違う原因があると考えられます。解説の難易度、あるいは音声や映像を取り入れるなどの工夫を考えていきます。

個々の項目で70%台後半の数値がいくつかありましたが、ほとんどが80%以上の数値となり、企画展の満足度は概して高かったため、達成目標をAとしました。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
 - ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
 - ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
 - ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。
 - ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。
-

[目標設定の理由]

- ・社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかなくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。
- ・さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。
- ・これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関するを中心とし、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

[一次評価の理由]

6年度の企画展は、前年度から引き続いて「鈴木敏夫とジブリ展」、神奈川ゆかりの工芸、絵画にも着目した「驚異の細密表現展」、独自の世界観をもつ絵本作家のエドワード・ゴーリー、油彩、写真、版画などジャンルを横断した創作を行った瑛九、横須賀の貴重な文化財である運慶展、箱根との連携企画である箱根彫刻の森美術館との展覧会、サルバドール・ダリと多岐にわたるラインナップでした。

民間企業と連携、協力して初めて実行委員会形式で開催した「鈴木敏夫とジブリ展」。既に全国を巡回してきた展覧会でもあり、スタジオジブリの知名度の高さや、企画協力のムービックや博報堂のつちかったノウハウを生かし、展覧会全体では16万人の来館者がありました。会場での人員整理など美術館でも新たな経験も多く得られた。また市内への周遊がかなり多くみられ、観光に寄与いたしました。

「驚異の細密表現展」は「細密表現」をキーワードにして「江戸・明治期の工芸」「近代洋画」「近代日本画」「現代美術」と幅広いジャンルから作品を紹介しました。初めて神奈川ゆかりの輸出工芸品をまとめて紹介したことや、地域の小学生、高校生との関連事業もあってテレビ放送が2回、新聞でも多くとりあげていただきました。

「エドワード・ゴーリーを巡る旅」は、およそ250点に及ぶ絵本原画に加えて、舞台美術や衣装デザイン、演劇やバレエのポスターも展示しました。また、晩年のゴーリーを知る知人たちの証言を含むドキュメンタリー映像なども併せて紹介し、エドワード・ゴーリーの制作活動に加えて、その人物像にも迫る内容でした。

「瑛九展」は、油彩、版画、写真を横断して制作した特異な才能である瑛九に着目した自主企画展。関東では13年振りの開催であり、宮崎県立美術館をはじめとして代表作を中心に集め、また当館の所蔵するセロファンをもとにしたフォト・デッサンを特定、出品することもできました。作品をもとにオリジナルTシャツも販売し、はじめて瑛九を知った方にも広く魅力を訴えることができました。

「運慶展」は横須賀市芦名の浄楽寺に伝来する、国指定重要文化財の運慶仏五尊を、浄楽寺収蔵庫改修工事期間中にお預かりし、展示室5内で特別公開したものです。2022年の運慶展で展示した二尊に加え、本尊および両脇侍像が揃う得難い機会となりました。この機会に、三浦一族ゆかりの仏像二尊（市内・清雲寺、三浦市・天養院）も加え、小規模ながらも質の高い展示とすることができました。

期間中、運慶展を目的として来意した方の割合が飛び抜けて高く、運慶の強い訴求力がうかがえます。作品の満足度も90.2%と、一定の評価を得ることができました。最終的な観覧者数は27,191人でした。

一方、常に課題となっている展示解説への高いニーズに対しては、イラストガイドの『見てわかる編』と、浄楽寺副住職のインタビュー記録『読んで知る編』を無料配布するなどして対応に努めたにも関わらず、「解説」に対する満足度は78.9%と低調でした。展示解説について、よりよい手法を今後も検討していきます。

「響きあう20世紀美術」は箱根地域の美術館と連携する企画の第2弾として、彫刻の森美術館のご協力を得て開催しました。ピカソやムーアなどを含む彫刻の森美術館の名品39点と、当館の所蔵作品27点を組み合わせてテーマごとに展示することにより、意外な出会いや調和が生まれ出され、互いのコレクションの楽しみ方の可能性が広がる機会となりました。

「サルバドール・ダリ展」は生誕120周年にあわせ、大きなダリ・コレクションをもつ諸橋近代美術館の所蔵品を中心に全国の美術館からシュルレアリスム関連の作品もあわせて構成して全国5館を巡回した展覧会。油彩、素描、版画、彫刻などダリの多様な側面や、日本国内のシュルレアリスムのコレクションの魅力が伝わったと考えています。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第1期はジブリ展の開催のため、通常の展示スペースではなく、図書室前の無料スペースに朝井閑右衛門を展示しました。

第2期では吹き抜けの大空間を使って、横須賀ゆかりの日本画家、新恵美佐子の特集展示、生誕100年にあわせて芥川紗織の展示を行いました。

第3期では、「かながわ散歩」として、神奈川にゆかりのある作品を紹介。企画にちなんでかながわ信用金庫3店舗でもパネル展示を行いました。また北側ギャラリーでは、休館日に「海外MI旅行誘致支援事業テストツアー」を行いました。

第4期では特集として令和5年度の「新収蔵作品展」として、購入した森山大道作品をはじめ、近年ご寄贈、寄託いただいた作品をご紹介しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。1期は「足もとに目を向けると」、第2期は「奏でる—楽器の調べー」、第3期は「大人たち」、第4期は「ろうけつ染めの世界 新収蔵作品を交えて」の特集をそれぞれ組みました。

以上のように、令和6年度はバラエティに富んだ展覧会、そして3月下旬から「鈴木敏夫とジブリ展」と「運慶展」を行い、通常よりも本数が多く8本となりました。第1期の所蔵品展については、朝井閑右衛門作品を2階ギャラリーで小展示を行いました。所蔵品展、谷内六郎館におきましても、毎回テーマを設け、小企画や新収蔵作品も積極的にご紹介してまいりました。これらを総合的に判断しA評価といたしました。

教育普及事業（一般向け）については、下表のとおりとなります。

講演会やワークショップなど幅広い事業を行うことにより、一定の成果を上げることができました。

展覧会に関連した講演会、ギャラリートーク等の実施

タイトル	実施日	参加者数 (人)
「瑛九」展関連講演会「瑛九の眼」	9/14	29
「響きあう 20世紀美術」展関連「ギャラリートーク 美術ものがたり—20世紀の流れ」	11/16	11
「サルバドール・ダリ」展関連講演会「天才サルバドー ル・ダリの秘密」	2/8 午前・午後	100
第2期所蔵品展(特集:芥川紗織)関連「生誕100年 芥 川紗織 トーク&レクチャー」	9/22	21
「運慶」展関連「てらこや運慶塾 美術史の授業 “淨樂 寺の運慶仏を読み解く”」	11/4	52
所蔵品展関連トークショー「建築とサインデザイン」	3/8	54
学芸員によるギャラリートーク	9/29, 10/13, 11/24, 12/8, 2/24, 3/8	81

展覧会に関連した動画制作および公開(当館YouTubeにて公開)※2025年5月28日現在

タイトル	公開日	再生回数 (※)
第2期所蔵品展「特集:新恵美佐子」インタビュー	8/21	1,885

展覧会に関連したワークショップ等の実施

タイトル	実施日	参加者数 (人)
「鈴木敏夫とジブリ展」関連ワークショップ「アニメー ション美術の技法で“青空に浮かぶ雲”を描く」	5/1 午前・午後 5/2 午前	37
「瑛九」展関連ワークショップ「感光性樹脂版で“フオ ト・デッサン”を体験しよう！」	10/14	9
「響きあう 20世紀美術」展関連ワークショップ「分身 彫刻と海を見よう！」	11/30 (午前・午後)	11
「運慶展」関連ワークショップ「てらこや運慶塾 美術 の時間 “仏像なぞり書き講座”」	11/9 (午前・午後)	37
「運慶展」関連ワークショップ「てらこや運慶塾 手芸 の時間 “ビーズ刺繍ワークショップ”」	12/8 (午前・午後)	24

展覧会関連以外のワークショップ等の実施

タイトル	実施日	参加者数 (人)
オトナ・ワークショップ「ガラスのおさらをつくりましよう」	7/14 (午前・午後)	20
シネマパーティー2025 in 横須賀美術館『枯れ葉』	2/1, 2/2	60
オトナ・ワークショップ「九谷焼大皿絵付け」	11/10	13

他課との連携等

タイトル	実施日	参加者数
筆ロック 東西大会 FINAL (一般社団法人筆 WONK と共催)	10/6	—
Koyart (農業振興課他と連携したマルシェ)	11/9, 11/10	—

図書室については、美術史・絵画・建築・デザイン・写真などの本や展覧会カタログ、子ども向けの入門書、定期購読雑誌、展覧会関連資料や所蔵作家に関する資料などを収集・公開し、多くの来館者に利用されています。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

[一次評価]

達成目標	実施目標
D	A

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 40,000 人

[目標設定の理由]

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行い、その成否を観覧者数によって評価しています。
- ・例年、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催することとし、目標達成のための契機としています。令和6年度は、前年度から継続して開催される「鈴木敏夫とジブリ展」により、家族層の来館を促します。なお同展は、本来は企画展を行わない地階の所蔵品ギャラリーを使って委員会形式で開催されます。その分の令和6年度のみの加算分は、18,000人です。

[一次評価の理由]

目標に対して69.0%の達成率であったため、一次評価をDとしました。

小学生美術鑑賞会をはじめ学校連携等は、年度当初の見込みどおり実施できた一方で、ゴールデンウィークにあたる5月と、夏休みにあたる7、8月の、中学生以下の観覧者がやや低調でした。

令和4年度以前の目標は22,000人でしたが、「鈴木敏夫とジブリ展」開催に伴う観覧者数増を見込んで設定した40,000人という目標が高すぎたことも要因と考えられます。また、夏休みに開催した企画展「エドワード・ゴーリー」が、大人向けの展覧会であったことも影響していると思われます。

目標の設定および家族層など幅広い年代へアプローチできる展覧会の開催が今後の課題といえます。

中学生以下の観覧者数

(単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
幼児	3,244	3,039	4,912	7,026
小学生	9,000	10,831	12,761	15,732
中学生	2,081	2,971	3,362	4,843
計	14,325	16,841	21,035	27,601

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
 - ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
 - ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
 - ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
 - ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
 - ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
-

[目標設定の理由]

- ・観覧者数の面では、その年度の展覧会の内容に左右されがちな項目ですが、実施目標の面では、年間を通じた取り組みによって、展覧会の内容にかかわらず、子どもにも親しみやすい美術館であるとの評価が得られるよう努めています。
- ・子どもや家族層に向けた取り組みとともに、学校連携を重視しています。
- ・学校連携では、学校による美術館活用の推進、鑑賞を通した言語活動の充実、校外での児童の作品展示など、図工・美術の学習指導要領を踏まえた具体的な取り組みを進めています。また、教員のニーズを把握するよう努めています。
- ・学校とは違った美術館ならではのプログラムを提供し、子どもたちが美術に親しむ機会を拡充することも重要です。家族で参加できるワークショップなどにも力を入れていきます。

[一次評価の理由]

子ども・親子向けのワークショップを実施し、一定の成果を得ることができました。児童生徒造形作品展では、小学生10名弱に1名のボランティアがついて行う「対話による鑑賞」が定着し、より豊かな鑑賞体験を提供することができています。児童生徒造形作品展では観覧者数15,403人と、例年並みの水準を回復することができました。中学生を対象とした事業については、夏休みの鑑賞教室の開催と、職場体験の受け入れを予定通り行いました。以上の実績に基づき、一次評価をAとしました。

展覧会に関連した子ども・親子向け事業

タイトル	実施日	参加者数(人)
「鈴木敏夫とジブリ展」関連イベント「ポニヨのふわふわ遊具で遊ぼう！」	4/13、14	881
「エドワード・ゴーリーを巡る旅」展関連ワークショップ「空白を埋めて物語をつくる：パラパラブックワークショップ」	8/4 (午前、午後)	41
第2期所蔵品展関連ワークショップ「墨で自由に絵を描こう／水墨画を描く」	9/7 (午前、午後)	39

令和6年度に開催したその他の子ども・親子向け事業

タイトル	実施日	参加者数(人)
中学生のための美術鑑賞教室	7/20～9/1 鑑賞ガイド配布 鑑賞教室6回	54人
野外シネマパーティー2024 in 横須賀美術館『ディリリとパリの時間旅行』	8/31, 9/1 (雨天のため事前申込制・室内開催)	33
おやこワークショップ「干支（へび）の絵付け教室」	11/24 (午前・午後)	35
こどもワークショップ「陶とガラスのレリーフづくり」	3/9 (午前・午後)	17
先生のための美術館活用講座	7/31	31
市立中学校の職業体験受け入れ	通年	13 (8校受入)
市立保育園7園対象の鑑賞プログラム	通年	225

令和6年度に開催したその他の学校連携事業（近隣小学校、市内高等学校、教育委員会学校食育課等との連携事業）

タイトル	実施日	参加者数
「驚異の細密表現」展関連事業「じっくり観察して描いてみよう！つくってみよう！」	5/16、5/21、 5/24 6/1～展示	15

「驚異の細密表現」展関連アウトリーチ活動(出品作家による制作デモンストレーションと講演)	5/30	7
「運慶展」関連「高校生のための仏像スケッチ・デー」	2/3 午前・午後(2回)	28
谷内六郎にちなんだ給食メニュー提供と解説DVDの制作及び配布	12/2～12/5	市立小・中学校・特別支援学校(全71校)

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】環境調査の実施（年2回）

美術品評価委員会の開催（年1回）

[目標設定の理由]

- ・作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。
- ・収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に1回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。
- ・また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、保管に関する数値目標とします。

[一次評価の理由]

環境調査について、5月20日～6月17日、7月10日～8月8日の日程で2回実施しました。

また、2月12日に当年度の美術品評価委員会を開催し、寄贈作品・資料20件255点について審議しました。

目標を達成したため、一次評価はAとしました。

【実施目標】

- ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
- ・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
- ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
- ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

[目標設定の理由]

優れた美術品を広く収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、作品の保管、展示のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

[一次評価の理由]

令和6年度は、寄贈により作品・資料20件255点を受け入れました。高間惣七《アトリエの一部》(1931年)は、同じ作者による、すでに所蔵している1918年の作品と、1950年代以降の作品の間を橋渡しするものです。田中佐一郎による2点は、長く寄託されてきた作品をあらためて寄贈として受け入れたものです。佐藤泰生(逗子市在住)、滝波重人(横須賀市在住)は、いずれも地域にゆかりのある作家として、かねてから当館で展示実績のある画家です。それぞれ、自作4点、3点のご寄贈を受けました。芥川(問所)紗織は、1950~60年代に、特異な作風で輝いた女性画家として、近年再評価の機運が高まっています。当館では早く平成20年度に回顧展を開催した縁から、生誕100年となる当年度にオイルパステル2点の寄贈を受けることとなりました。

当館のコレクションを特徴づけるひとつである谷内六郎については、個人の方2名から、縁あって所蔵されていた作品のご寄贈をいただきました。それらを除く6件228点は、令和3年度の「生誕100年 谷内六郎展」のために遺族よりお預かりしたもの一部であり、昨年度から今後数年間にわたり、整理確認の済んだものから順に受け入れています。

環境調査について、収蔵施設・1階展示室では、例年とほぼ同じ良好な結果が得られています。一方で、地下の展示室・ギャラリーでは、じやっかんの昆虫類の侵入がみられました。今後も調査を継続し、必要に応じて防除等の処置を行います。

修復・額装について、令和5年度に寄贈を受けた島田章三作品2点の修復を行いました。また、当年度の寄贈作品である高間惣七作品、および田中佐一郎作品2点について、作品の保全や映り込みの解消を目的として、既存の額装を改めました。さらに、昨年度から受け入れを進めている谷内六郎作品のうち、29点(No. 29~34)について、新規マット装を施し、以上はいずれも処置後、所蔵品展、あるいは館外貸出で活用しています。また、経年により固定状態が悪くなっていた谷内六郎作品9点については、作品保全を目的としてマット装の調整を行いました。

他の美術館で企画された展覧会6件に対し、要望に応じて所蔵作品19点を貸し出しました。

今年度収集した作品はいずれも、当館のこれまでの活動の蓄積が育んだご縁から、コレクションの充実のために寄せられた作品といえます。保管・展示環境の調査と維持、所蔵作品の保全と活用のための修復・額装についても、大きな問題なく計画的に進められていることから、一次評価をAとしました。

[次年度への課題]

- ・作品データベースの公開と、画像データの管理について仕組みを検討します。
- ・所蔵する作品の状態調査をさらに進め、適切な修復・額装を行います。

III 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

[目標設定の理由]

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問 8 項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい 2 項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、平成 24 年度から 5 段階評価に加え、「特によかったです、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

[一次評価の理由]

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度ともに高水準で目標を達成しています。そのため「A」評価としました。

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
館内アメニティ満足度	95.8%	94.7%	94.5%	92.4%
スタッフ対応の満足度	93.2%	90.8%	89.8%	91.0%

館内アメニティ満足度に関して、「海や山を間近で見られるロケーションや景観がすばらしい」「建物が綺麗で清潔感がある」など、当館の環境について好意的なご意見を多くいただきました。

一方で施設の劣化は年々進んでおり、「館内が暑い」など設備面でのマイナスなご意見もいただいているため、安全性と美観を維持し、お客様が気持ち良く過ごすことができるよう、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

- ・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・運営事業者と協力して、附帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

[一次評価の理由]

(メンテナンス)

- ・館内に設置している空調機（エアハンドリングユニット）について、経年劣化等がみられる部位の修繕（オーバーホール）を実施しました。
- ・館内の空調環境を適切に管理するための空調自動制御装置を構成する機器のうち、操作不良がみられるセンサー、計測器等の交換修繕を実施しました。
- ・空調熱源設備の出力低下に伴い、H P - 2号機のN o.1 およびN o.2 系統の吐出三方弁の交換修繕を実施しました。
- ・地下1、2階の駐車場付近の機械室等に設置している防火ダンパーが、塩害等の要因により固着し、有事の際に適切に動作しない状態となっていたため、交換修繕を実施しました。
- ・本館屋根ガラスのシーリングの腐食により、雨漏りが発生することがあったため、昨年度に続き、劣化部分のシーリングの張替え修繕を実施しました。
- ・図書室および学芸室の空調機（ファンコイルユニット）系統の冷暖房切換用電動ボルバル弁の一部が正常に動作しない状態となっていたため、交換修繕を実施しました。

【令和6年度の主な修繕（100万円以上の案件を抽出）】

区分	案件	金額（円）
機械設備	空調機（エアハンドリングユニット）修繕	9,570,000
機械設備	空調自動制御機器修繕	5,500,000
機械設備	空調熱源設備 HP-2号機 N o. 1吐出三方弁交換修繕	2,695,000
機械設備	空調熱源設備 HP-2号機 N o. 2吐出三方弁交換修繕	2,695,000
施設	地下1、2階防火ダンパー交換修繕	2,647,700
施設	本館屋根ガラスシーリング修繕	1,919,170
機械設備	冷暖房切換制御用ボール弁修繕	1,100,000

（清掃）

- ・日常の清掃について、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

（受付・展示監視）

- ・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。
- ・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。
- ・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接遇マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接遇チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

（ミュージアムショップ）

- ・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

（レストラン）

- ・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。
- ・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。

- ・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（11時30分～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。
- ・令和5年4月8日より、レストラン横の屋外スペースにて、軽食や飲み物等の販売を行うキッチンカーの営業を開始したことにより、飲食の際の選択肢の増加、レストランの混雑緩和など、顧客満足度の向上につながっています。

(災害への備え)

- ・12月に例年と同様の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

(その他)

- ・平成21年度より、毎月1回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 250 人以上

[目標設定の理由]

- ・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があり、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。
 - ・このため、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。
 - ・また、事業の対象となる方が、感染症の影響を受けやすい健康状況であることを想定し、1回の参加者数を抑え、余裕を持ったスペースで活動を行う場合があります。
- 以上のことから、令和6年度の目標値を「250人」とします。

[一次評価の理由]

令和6年度の福祉関連事業は、障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」、大人の障害者を主な対象とした福祉関連イベントなど、対面ワークショップや鑑賞プログラムを実施し、多くの方が参加しました。目標値を115%以上となったため、A評価としました。

福祉関連事業への参加者数

(単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教材制作 ※1 (旧:福祉関連講演会)	触察用点字版 パンフレット(2種)、触図制作	触察用作品レプリカ制作	触察用触図制作	触察用建築模型制作
福祉関連イベント	中止	32	14	15
	12	3	84	126
他館連携(MULPA)※2	終了	終了	終了	終了
みんなのアトリエ※3 (障害児者向けワークショップ)	中止 ⇒動画 ⇒(再開)54		156	157

託児	中止	実施	実施	実施
計	12	89	254	298

※1 福祉講演会は、令和3年度以降、視覚障害者等を対象とした建物および作品の触察図作りに変更しています。

※2 平成29年度より始まった他館連携において、障害者を対象とするワークショップの実施は令和2年度で終了しました。今後は、構成メンバーによるネットワークを維持し、アクセシビリティ向上や普及プログラム作成のための継続的な情報交換を行うこととします。

※3 みんなのアトリエ参加者は、保護者やきょうだい児を含みます。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しむための各種事業を行う。
- ・触察図など鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞等のプログラムを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

[目標設定の理由]

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていくことが重要です。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、令和3年度より制作を始めた触察図など鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かします。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成30年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げされることのないよう、引き続き適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

[一次評価の理由]

障害のある方を対象とした事業や託児を実施することができ、多くの方に参加していただけたためA評価としました。

「みんなのアトリエ」は、講師3名体制を継続し、身近な素材をつかった工作のほか、嗅覚や触覚に重点を置いた活動に取り組むことができました。

教材制作（旧：福祉講演会）は、触察用建築模型を制作しました。視覚障害者や子どもたちなどを対象としたガイダンスの際に、建築の特徴を伝えるために使用するも

のです。パズルのように、ピースを嵌め込みながら建築のつくりを知る仕組みになっています。

福祉関連イベントとして、市内の作業所や福祉施設、放課後デイを対象としたワークショップを開催しました。また、視覚障害者をはじめ誰でも参加することができる鑑賞プログラムを実施しました。どちらも数年つづけて開催することで、ニーズを把握し、ノウハウを蓄積しながら、さまざまな特性を持った方々を受け入れるための素地をつくっていきます。

託児は、イベント実施に伴って8回、定期託児として4回の募集を行いました。そのうちイベント実施に伴って2名、定例託児において2名、計4名の利用がありました。次年度においても、美術館が設定した募集日以外にグループの希望日での利用を募るなど、引き続きニーズを探りながら、小さなお子様連れの方が利用しやすいサービスとなるよう検討していきます。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。

[目標設定の理由]

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるように、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数の平均値を目安とします。
- ・今までの目標は直近3年間の平均値としていました。しかし、令和2年度および令和3年度は臨時休館を実施し、参考指標とならないため、令和4年度及び令和5年度の目標は平成30年度及び令和元年度の2年間の平均値としました。令和6年度目標については、目標観覧者数を鑑み、設定しました。
- ・これらの使用量は、気候や来館者数等の外的要因によって大きく変動するため、個々の数値目標の達成にこだわるよりも、増減の原因分析をとおして状況把握に努めるための目安値とします。来館者サービスのための光熱水費等の削減は難しいと考えますが、事務用品等、削減、節減できる項目について引き続き努力してまいります。

[一次評価の理由]

	R03	R04	R05	R06 (目標)	R06 (実績)	達成率
総電気使用量(kWh)	2,454,236	2,622,276	2,710,442	3,933,414	2,413,404	1.63
水道使用量(m³)	4,258	4,967	4,483	7,450	5,718	1.30
事務用紙使用枚数(枚)	179,000	208,000	104,750	312,000	128,000	2.43

目標観覧者数を考慮し目標値を高めに設定していたこともあり、全ての項目について目標値を大きく下回る結果となりました。水道使用量は、来館者数が過去最多となつたことに伴い、トイレの利用者数が増加したことなどで例年よりは多くなりましたが、電気使用料については令和3年度以降で最小となっており、美術館職員を含む館内スタッフ全体に省エネ意識が根付いてきた結果の賜物と考えています。また、事務用紙使用枚数については、前年度と比べ増加しているものの、ペーパーレスによる事務処理を継続して実施することで、十分は効果が現れている状況のため、引き続き、電子決裁の推進

および用紙の裏面使用やデジタルツールの等の活用により、資料印刷を抑え、削減につとめていきます。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

[目標設定の理由]

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

[一次評価の理由]

- ・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書微収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

- ・事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。
- ・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。
- ・当館のホームページやSNSを活用した情報発信を積極的に取り入れ、パンフレット等、印刷物の作成は過去の実績を踏まえながら必要最低限に留めることにより、経費の削減に努めています。
- ・事務用品についても在庫の整理、送料削減のために一定数をまとめて調達するなど、コスト意識を持って必要な物品の調達を行っています。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

[次年度への課題]

- ・令和6年2月以降、電力契約が最終保障供給契約から業務用季時別電力契約に変更となったことに伴い、利用料金が以前と比べ安価にはなったものの、社会情勢に伴う資源高騰等が続いていること、令和7年度についても電気料金単価の値上がりが決定しています。施設の維持管理や作品保存の観点から、使用量を大きく削減することは難しいですが、館内で使用している機器や設備を省エネ効果の高いものへ順次更改していくことを検討していきたいと考えています。まずは、令和7年度から実施する改修工事の中で、展示室やギャラリー、エントランス等の照明器具LED化や機能が低下している空調熱源設備のリプレース等を実施する予定です。また、美術館職員を含む館内スタッフ全体に対しては、引き続き、業務中の不要な電気の使用は控え、削減する意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。

- ・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。

4 横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿

	氏名	役職等	区分
委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授	学識経験者
委員 (委員長職務 代理者)	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事	関係団体の代表
委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長	社会教育関係者
委員	関口 洋輔	ラビスタ横須賀観音崎テラス 支配人	関係団体の代表
委員	慶長 雅史	横須賀市立大楠中学校校長	学校教育関係者
委員	倉田 瞳	市民委員	市民
委員	前波 美雪	市民委員	市民

5 横須賀美術館運営評価委員会条例

(設置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定に基づき、横須賀美術館の運営の状況の評価及びその評価の結果に基づく改善策に関し、市長の諮問に応ずるため、本市に地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定による附属機関として、横須賀美術館運営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員7人以内をもって組織する。

2 委員は、市民、学識経験者、関係団体の代表者、学校教育関係者、社会教育関係者及びその他市長が必要と認める者のうちから市長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員会において必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。

(その他の事項)

第6条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の同意を得て委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第2条第3項の規定にかかわらず、この条例の施行後初めて委嘱された委員の任期は、平成25年9月30日までとする。

令和 6 年度 横須賀美術館 運営評価報告書

令和 7 年 7 月
横須賀市文化スポーツ観光部美術館運営課

〒239-0813
神奈川県横須賀市鴨居 4-1
TEL 046-845-1211